

SMFL、排熱再利用支援

顧客の工場に ヒートポンプ 脱炭素・コスト減

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は熱回収ヒートポンプを活用したエネルギーサービスを始める。熱回収ヒートポンプを顧客の工場などの敷地に設置し、排熱を再利用する仕組みをつくる。企業の脱炭素やエネルギーコスト削減を支援する。サービス料を設備の稼働時間に応じた従量課金にする。顧客が導入しやすとした。あすか製業(東京都港区)と既に契約を締結し、2027年1月にもサービスを始める。年に8-10社ほどの新規契約を目指す。



あすか製業が導入する熱回収ヒートポンプ

年10社契約狙う

SMFL傘下のSMFLみらいパートナー(東京都千代田区)がメンテナンス事業者などと協力して、熱回収ヒートポンプを活用したエネルギーサービスを提供する。SMFLみらいパートナーから費用や運用にかかる手間を抑えられる設備を購入し、顧客の敷地に設置する。サービス料には設備の保守・メンテナンス費用や保険料などを含め

見込む。

SMFLみらいパートナーは1月、あすか製業と10年のサービス契約を結んだ。今後、あすか製業のいわき工場(福島県いわき市)に設備を設置し、27年1月にもサービスを開始する計画だ。熱回収ヒートポンプの導入で、二酸化炭素(CO₂)排出量を年46トン程度削減できるとみる。

あすか製業はサービスの効果を検証し、今後、利用を拡大するか検討する。

熱回収ヒートポンプは、企業の環境意識の高まりやエネルギー価格の高騰などを受けて需要拡大が見込まれている。政府も補助金などを渡し、熱回収ヒートポンプの導入を支援している。